

製品名: STAT5b ウサギモノクローナル抗体

カタログ番号: AMRe21131

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.2mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

応用

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:1000-1:5000,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:90kD;Observed MW:90kD

抗原情報

遺伝子名	STAT5B
別名	Signal transducer and activator of transcription 5B
遺伝子 ID	6777.0
SwissProt ID	P51692
免疫原	ヒト STAT5b の組み換えタンパク質

背景

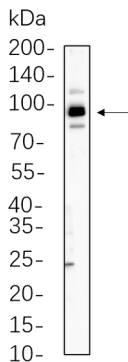
細胞局在: 細胞質、核。この遺伝子によってコードされるタンパク質は、転写因子 STAT ファミリーのメンバーです。サイトカインや

成長因子に反応して、STATファミリーのメンバーは受容体関連キナーゼによってリン酸化され、ホモ二量体またはヘテロ二量体を形成して細胞核に移行し、そこで転写活性化因子として作用します。このタンパク質は、IL2、IL4、CSF1、様々な成長ホルモンなど、様々な細胞リガンドによって引き起こされるシグナル伝達を媒介します。TCRシグナル伝達、アポトーシス、成体乳腺の発達、肝臓遺伝子発現の性的二型など、多様な生物学的プロセスに関与することが示されている。この遺伝子は、急性前骨髄球性白血病 (APLL) の少数のサブセットにおいて、レチノイン酸受容体 α (RARA) 遺伝子と融合することが判明しました。このタンパク質を介したシグナル伝達経路の調節不全が、APLLの原因である可能性があります。[但し書き

研究分野

-

画像データ



A549細胞ライセートを4~20% SDS-PAGEで分離し、膜をSTAT5bウサギモノクローナル抗体(1:1000)でプロットングした。抗体の検出にはHRP標識ヤギ抗ウサギIgG(H+L)抗体を用いた。